

服飾表現学科・映像・メディア表現専攻

1. 課程修了時の能力水準

ディプロマポリシーで定められているコースの専門職業人の人材育成を目標としている。

コースの課程修了時に達成されることが期待される能力の水準は「学生の学習成果の評価の方針（アセスメントポリシー）」の表に定められている水準である。

メディアにおける服飾の在り方を考え、視覚情報としてそのイメージを伝えるために、映像の企画・構想、撮影、編集技術を習得し表現していく能力の育成を目的とする。

TVやネット配信など多彩なメディアでクオリティーの高い映像表現を行う映像制作会社のスタッフからスタートし、最終的には映像ディレクター、映像作家などになれる人材の育成を目標とする。

2. 各年次の能力水準

講義、演習に関わる多くの現役のTVディレクターやプロデューサー、カメラマン、映像作家などの意見を基に各学年における到達目標を定めている。

GPA制度の評価方法は、科目の成績を5段階で評価したものに、S=4、A=3、B=2、C=1、D=0、のグレードポイント（GP）を付与し、奨学金の選抜や卒業時の代表の選考等に活用している。

2年次：専門コースの基礎知識における学力到達目標

- ・どのような企画を立て、どのような撮影をし、どのような編集/MAをすれば、どのような作品(動画)完成するのかが理解できる「映像を作り出す能力」の習得。

: 実務認識をもつ

講師は現役のTV番組プロデューサーやディレクター、カメラマン、映像作家が担当し、表現者としての経験をもとに講義と演習を行い、映像制作の認識を深める。(全員)

: 学部評価としての検定

色彩能力検定3級(全員)

: 評価基準(映像・メディア表現I)

準備学習等の意欲や学習態度・姿勢…30%

基礎課題…30%

応用課題…30%

プレゼン能力…10%

: 評価者

(学内) 2年担当者評価

(学外) ゲスト講師(TV番組プロデューサーやディレクター、カメラマン、映像作家)

3年次：専門コースの応用知識における学力到達目標

- ・課題テーマの映像作品を企画から制作までを個人でできる能力
- ・プロ仕様の撮影機器と編集ソフトの操作が出来、理解できる知識と技術

: 企業の実務認識をもつ

- ・インターン(学外実習)において、(一社)日本ファッション・ウィーク推進機構が主催する

東京ファッション・ウィーク(東京コレクション)の公式記録映像の記録制作の現場にアシスタントとして参加し、実務認識を持つ。また 1985 年放送開始の日本で唯一のファッション専門テレビ番組の制作にも OJT として参加し、映像制作業界での職種選択の一助とする。

: 学部評価としての検定

色彩能力検定 2 級(全員)

: 評価基準 (映像・メディア表現Ⅱ・Ⅲ)

準備学習等の意欲や学習態度・姿勢	… 30%
作品 (クリエイティブ性・企画立案/制作能力・完成度)	… 50%
プレゼン能力	… 20%

: 評価者

(学内) 3 年担当者が評価

(学外) 学外実習先映像制作会社管理職スタッフ

4 年次 : 専門コースの卒業年次における学力到達目標

・専攻コースで今まで学んだ知識やノウハウ、技術を駆使して、映像作品を具現化する。見る人に制作者の意図や思いが伝わり、納得させる「作品」を制作することができる能力。

: 学部評価としての検定

・色彩能力検定 2 級 (全員)

: コンテスト参加

・外部映像作品コンテスト参加

: 評価基準 (映像・メディア表現卒業制作Ⅰ・Ⅱ)

準備学習等の意欲や学習態度・姿勢	… 30%
映像作品 (芸術性・完成度)	… 50%
プレゼン能力	… 20%

: 評価者

(学内) 4 年担当者が評価

(学外) 現役 TV プロデューサー/ディレクター、映像作家